

大磯宿の名所マップ。

大磯町郷土資料館 春季企画展

めぐってみよう！ 大磯宿 ー解説資料ー

東海道 大磯宿

- 江戸から数えて8番目
 - 宿往還：23町33間（約2.6km）
 - 宿高：701石余り
 - 人口：3,056人
 - 家数：676軒
 - 旅籠：66軒（大：5軒、中：19軒、小：42軒）
- 天保14年（1843）「東海道宿村大概帳」より

■ ■ ■ ■ 現在の国道 1 号

現在の地名・建物など

● 高札（幕府のお触れを掲示する場所）

● 問屋

① などの数字を付した名所は、裏面に説明があります。



※この地図は、文化3年（1806）「東海道分間延絵図」などを参考に作成しました。

大磯宿の名所マップ 解説

① 花水橋

明暦元年（1655）「道中記」、万治2年（1659）頃「東海道名所記」など、各種の道中記や街道絵図に登場します。約70mの橋がかかっていると書かれています。



花水橋

② 高麗山と高麗寺

花水橋の向こうに見える高麗山は、昔から信仰の対象となり、高麗権現という神様が祀られていました。仏教が日本に伝来すると、高麗権現の別当として高麗寺が創建され、高麗山は神仏習合の信仰が色濃い地域となります。道中記にも、高麗寺や高麗権現のことが紹介されています。



高麗山

③ 化粧坂・長者屋敷跡

「曽我物語」の主人公曽我兄弟の兄・十郎祐成すけなりの恋人、虎御前にまつわる名所です。この辺りには、鎌倉時代に遊郭があり、たくさんの遊女たちがいて、虎もその一人であったと言われています。ここには虎の木像があり、現在の釜口古墳と考えられる釜の跡があるなどと、道中記には紹介されています。



化粧坂

④ 虎御石

同じく虎御前にまつわる名所。道中記などには地福寺にあると書かれることもあります。延台寺にあります。江戸時代は色好みの石と言われ、良い男が持ち上げると持ち上がり、悪い男が持ち上げると持ち上がらないと言われていました。そのため、浮世絵などには、男性が丸い石を持ち上げる様子が描かれます。



延台寺の虎御石

⑤ 鳴立沢・鳴立庵

大磯宿の西外れにある鳴立沢は、西行法師が「心なき 身にも哀れは しられけり 鳴立沢の 秋の夕暮」という歌を詠んだ地であると言われています。江戸時代の寛文初めの頃（1660年頃）に小田原の崇雪そうせつが庵を結び、元禄8年（1695）に俳人のおよどみちかぜおおよど みちかぜがその庵に入庵して、俳諧道場「鳴立庵」として知られるようになりました。大磯の人気スポットの一つです。



鳴立庵

⑥ こよろぎの磯

こゆるぎの磯とも。景観のよい場所として、浮世絵などにも描かれています。この浜で採れる色砂利（さざれ石）は、大磯の名物として広く知られていました。大磯宿の本陣を務めた小島家は、大名へこの砂利を献上し、紀州徳川家からこの砂利の採取を任されたこともありました。



こよろぎの磯

⑦ 切通しの石地蔵

現在、西長院さいちょういんに祀られている身代地蔵みがわりのこと。肩から腰にかけて袈裟がけの傷があることから、身代地蔵と呼ばれています。江戸時代の道中記では、化けて人をおどかしたと紹介されることが多いです。近くでは、あわもちが売られ、旅人たちが足を休める名所でした。



西長院の身代地蔵

■参考にした道中記など■

明暦元年（1655）「道中記」（金井金吾編『道中記集成』第1巻所収）
万治2年（1659）頃「東海道名所記」（朝倉治彦校注『東海道名所記』平凡社 1979）
元禄3年（1690）「東海道分間絵図」（神奈川県立歴史博物館所蔵）
寛政9年（1797）「東海道名所図会」（『東海道名所図会』復刻版 羽衣出版 1999）
享和2年（1802）「東海道木曾路増補広駅道中記」（神奈川県立歴史博物館所蔵）
天保10年（1839）「諸国道中袖鏡」（神奈川県立歴史博物館所蔵）
江戸末期「五海道中細見独案内」（神奈川県立歴史博物館所蔵） など

■ご協力者■

延台寺 神奈川県立歴史博物館 西長院
高来神社 松江市 六所神社
（敬称略・五十音順）

掲載写真は、大磯町郷土資料館または大磯町教育委員会が撮影しました。

大磯町郷土資料館 Oiso Municipal Museum

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1
TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660
<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/oisomuseum/>
令和4年（2022）4月作成